表２　空間γ線線量率における属性値

属性記号	内容
A	検出部異常
B	測定部異常
D	線量率高
I	調整中
Y	データなし
Z	ー

表３　気象データにおける属性値

属性記号	内容
Y	データなし
Z	その他

表４　大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度における属性値

属性記号	内容
A	未集じん
B	ろ紙送り中
C	サンプラ異常
M	検出器異常
N	測定部異常
O	αダウンスケール
P	α計数率高
R	βダウンスケール
S	β計数率高
U	調整中
V	通信異常
Y	データなし
Z	ー

出典：環境放射性物質監視システム取扱説明書
（平成 14 年度版　富士通 FIP 株式会社）

表5 測定所の環境放射性物質監視測定システムの保守・点検等実施期間

測定所	保守・点検等実施期間(日)					
	測定装置					システム端末
	平成12年度設置完了	平成13年度点検		平成14年度点検		平成14年度
		第1回	第2回	第1回	第2回	
利尻	2000.07.20	2001.09.25-09.26	2002.03.14	2002.09.24-09.26	2003.03.19	
竜飛岬	2000.07.15	2001.11.12-11.15	2002.03.08	2002.09.17-09.19	2003.03.26	
鹿島	2000.06.19	2001.12.03-12.05	2002.03.18	2002.11.26-11.28	2003.03.24	
佐渡関	2000.07.07	2001.10.03-10.04	2002.03.08	2002.10.16-10.18	2003.03.20	2002.10.31
越前岬	2000.07.05	2001.11.26-11.28	2002.03.06	2002.11.19-11.21	2003.03.14	2002.10.29
伊自良湖	2000.07.10	2001.11.19-11.22	2002.03.20	2002.09.10-09.12	2003.03.12	2002.12.05
隠岐	2000.07.01	2001.10.23-10.25	2002.03.26	2002.11.12-11.14	2003.03.03	2002.10.08 10.15
蟠竜湖	2000.06.30	2001.10.29-10.31	2002.03.28	2002.11.06-11.08	2003.03.10	2002.11.06
梼原	2000.07.14	2001.11.05-11.07	2002.03.08	2002.10.29-10.31	2003.03.10	2002.12.03
対馬	2000.06.23	2001.12.12-12.14	2002.03.13	2002.10.08-10.10	2003.03.17	2002.10.29
五島	2000.06.20	2001.10.16-10.17	2002.03.15	2002.10.22-10.24	2003.03.07	2002.10.18
辺戸岬	2000.07.18	2001.08.28-08.30	2002.03.11	2002.10.02-10.04	2003.03.19	2002.11.06

表6　各測定所のダストモニターのろ紙交換日

測定所	ろ紙交換日											
	平成12年	平成13年					平成14年					平成15年
利尻	07.19	02.13	07.05	09.27	12.21	—	03.28	07.04	09.27	12.19	—	03.13
竜飛岬	11.14	05.08	07.02	10.09	—	—	01.08	04.02	07.09	10.01	12.24	—
鹿島	12.29	03.27	06.25	09.25	12.26	—	03.25	06.24	09.26	12.25	—	03.12
佐渡関	12.09	05.30	06.28	09.27	12.27	—	03.28	06.25	09.27	12.30	—	03.27
越前岬	—	01.01	03.31 (04.01)	05.31 06.25	10.01	—	01.01	03.18	07.02	10.03	—	01.08 03.24
伊自良湖	—	01.01	03.31 (04.01)	05.31 07.02	09.30	—	01.01	03.31	07.08	10.15	10.15	03.17
隠岐	11.13	04.16	06.20	10.22	12.11	—	03.06	06.28	09.25	12.19	—	02.28 03.27
蟠竜湖	10.31	02.28	06.25	09.25	12.25	—	03.27	06.24	09.30	12.25	—	03.24
梼原		01.22	06.05	07.02	10.15	12.27	04.01	06.26	10.02	12.25	—	—
対馬	10.25	03.27	06.18	09.10	12.25	—	04.08	06.03	09.24	12.19	—	03.27
五島	12.05	03.27	06.19	09.11	12.27	—	03.28	06.04	09.25	12.20	—	03.28
辺戸岬	—	01.01	03.15	04.04 06.27	10.10	12.25	04.04	07.08	09.30	12.24	—	03.27

表７　自然現象等による空間γ線線量率の変動

変動の原因		変動のパターン	変動の頻度	増加量
自然現象による変動	降雨	降雨中ゆるやかな変動を持つ	年間 100 回程度 地域によって差がある	≈ 20 nGy/h ≈ 10 μGy/y
	降雪	増加と減少が複雑に入り混じる	地域によって差がある	±10 nGy/h
	雷雨	急激に増加して約30分の半減期で減少	春先に多い	最高数 10 nGy/h になることがある
	積雪	積雪によるしゃへい効果	地域によって差がある	≈ 10～30 nGy/h 程度減少
	その他の気象	逆転層による日周期		≈ 10 nGy/h 程度
		地表の水分による放射線の吸収		≈ 2 nGy/h 程度減少
大気圏内核爆発実験		実験の数日後には変動が現れ経過時間にほぼ比例して増加量を示す		経過日数が短ほど大で、2～3 日後には通常レベルの数倍になる場合がある。
原子力施設		一定しない、特に負方向の変動が短い周期を持つ		
測定器の特性		主として温度変化による	温度変化による日変化、年変化	温度によって数%～10%に及ぶ場合がある。
測定器の故障		過大または過小な値を示す		

出典：環境放射線モニタリングに関する指針
（平成 13 年 3 月一部改訂、原子力安全委員会）

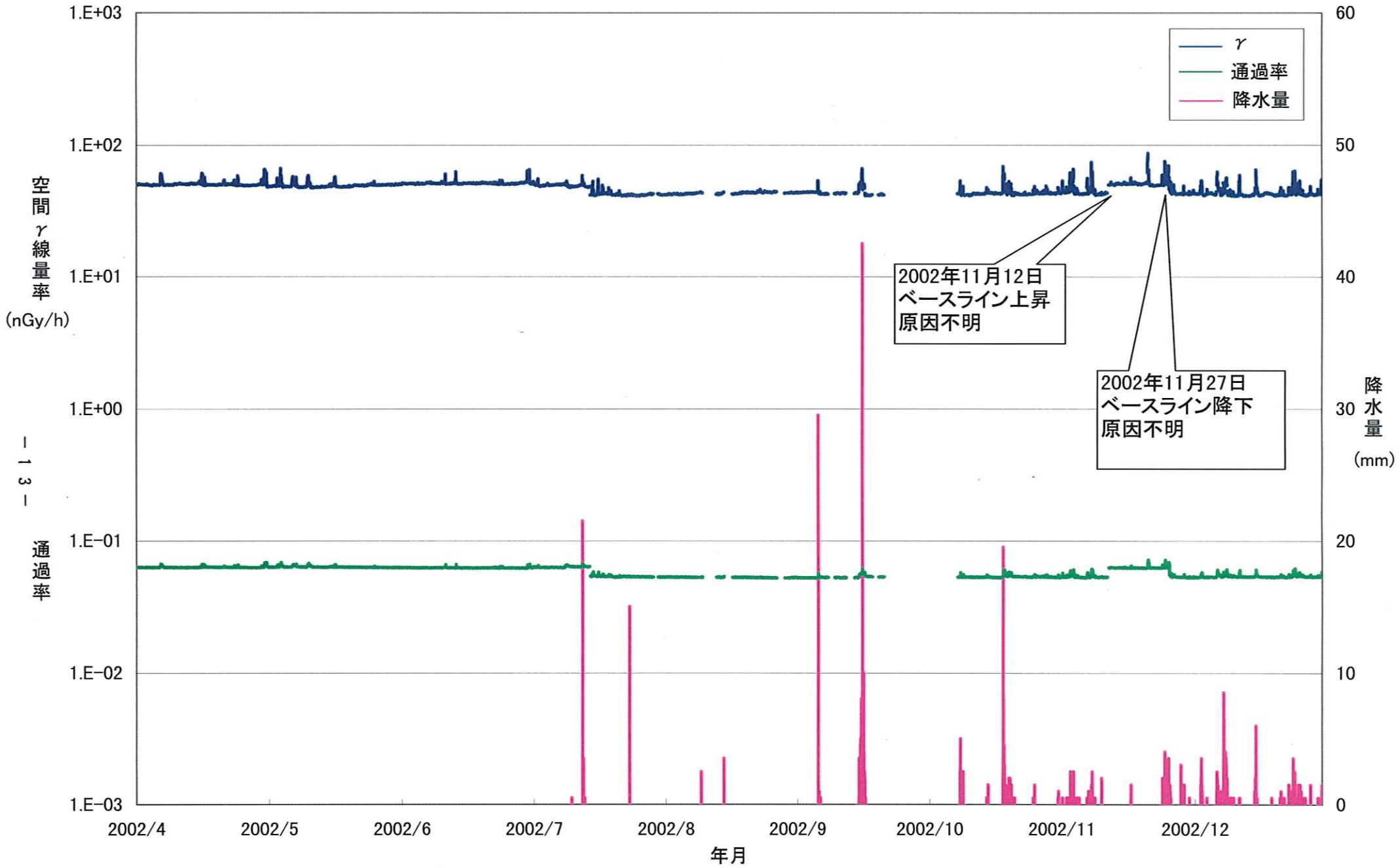


図2　隠岐測定所における空間γ線量率及び降水量との関係　（2002年4月～12月）

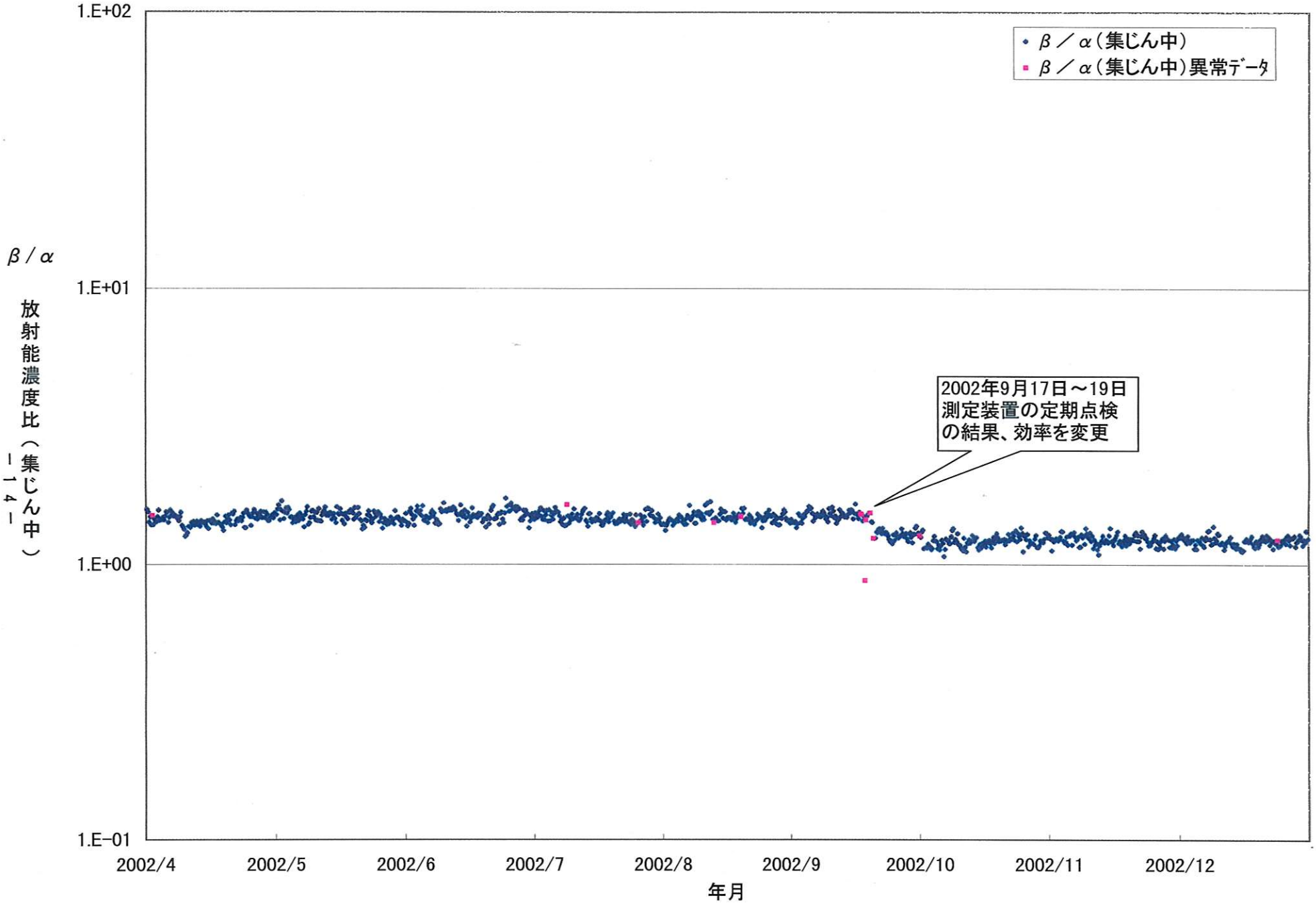


図3　竜飛岬測定所における大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度比（集じん中）（2002年4月～12月）

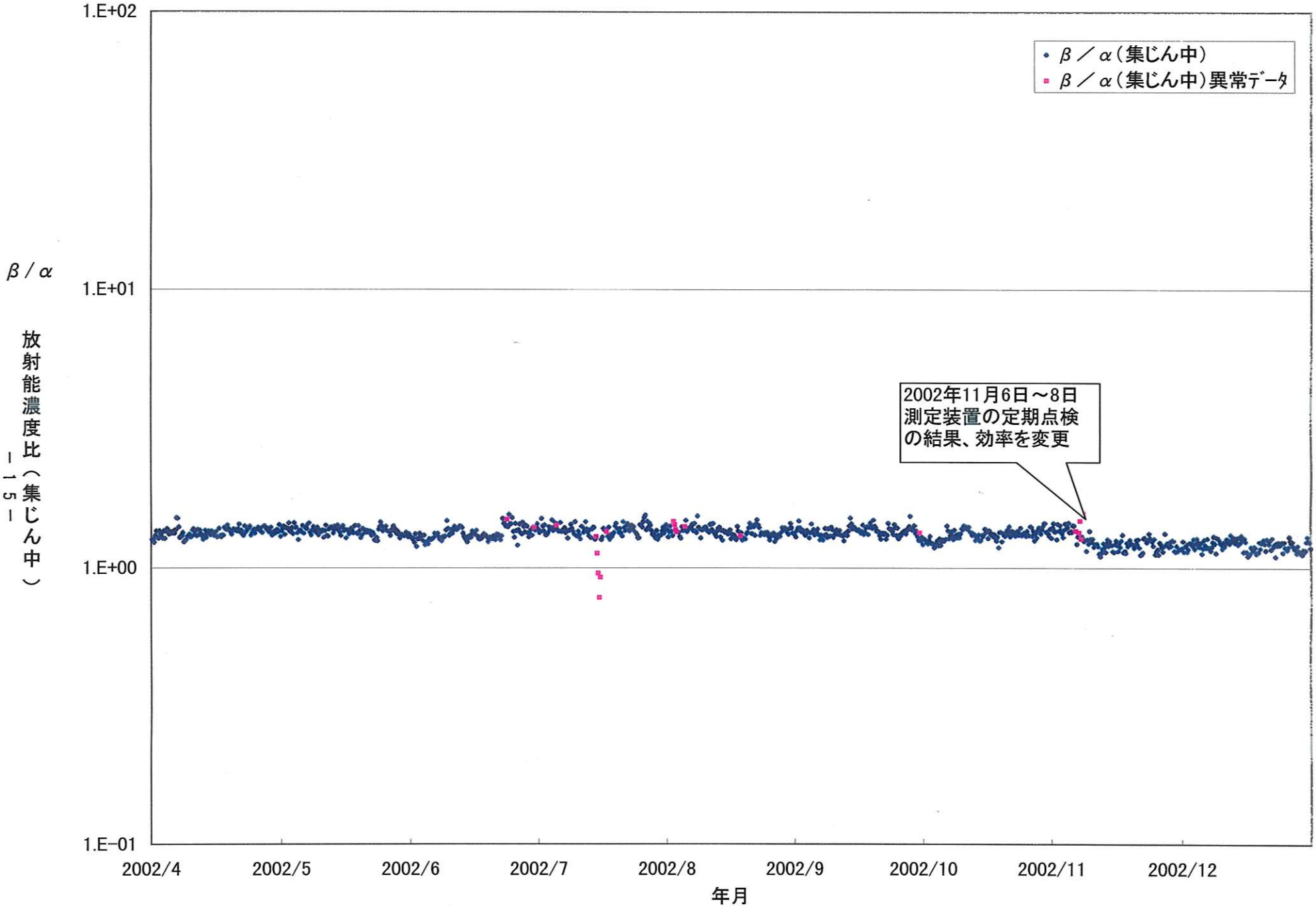


図4　蟠竜湖測定所における大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度比（集じん中）（2002年4月～12月）

図5　蟠竜湖測定所における大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度比（2ステップ後）（2002年4月～12月）

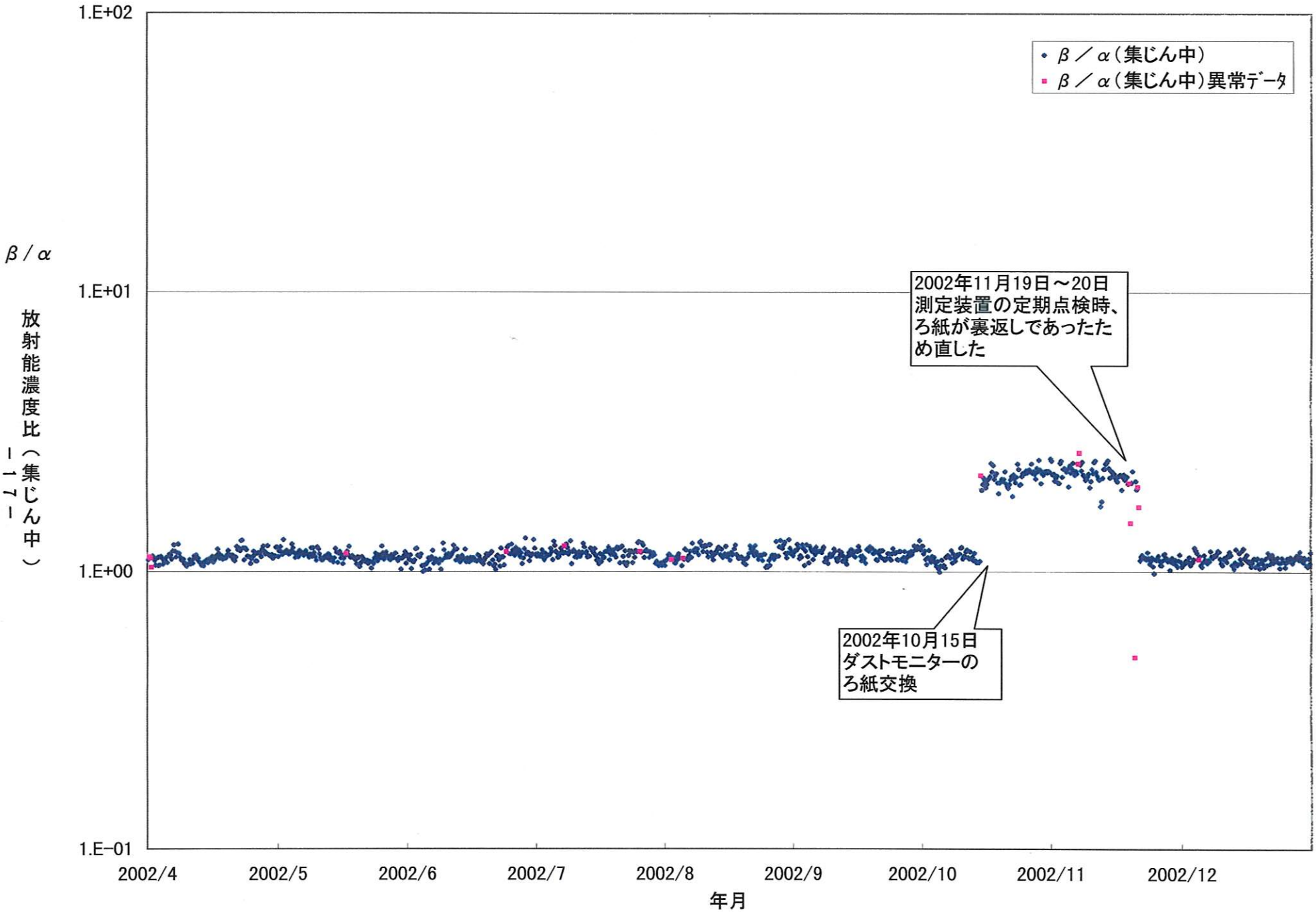


図6 伊自良湖測定所における大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度比（集じん中）（2002年4月～12月）

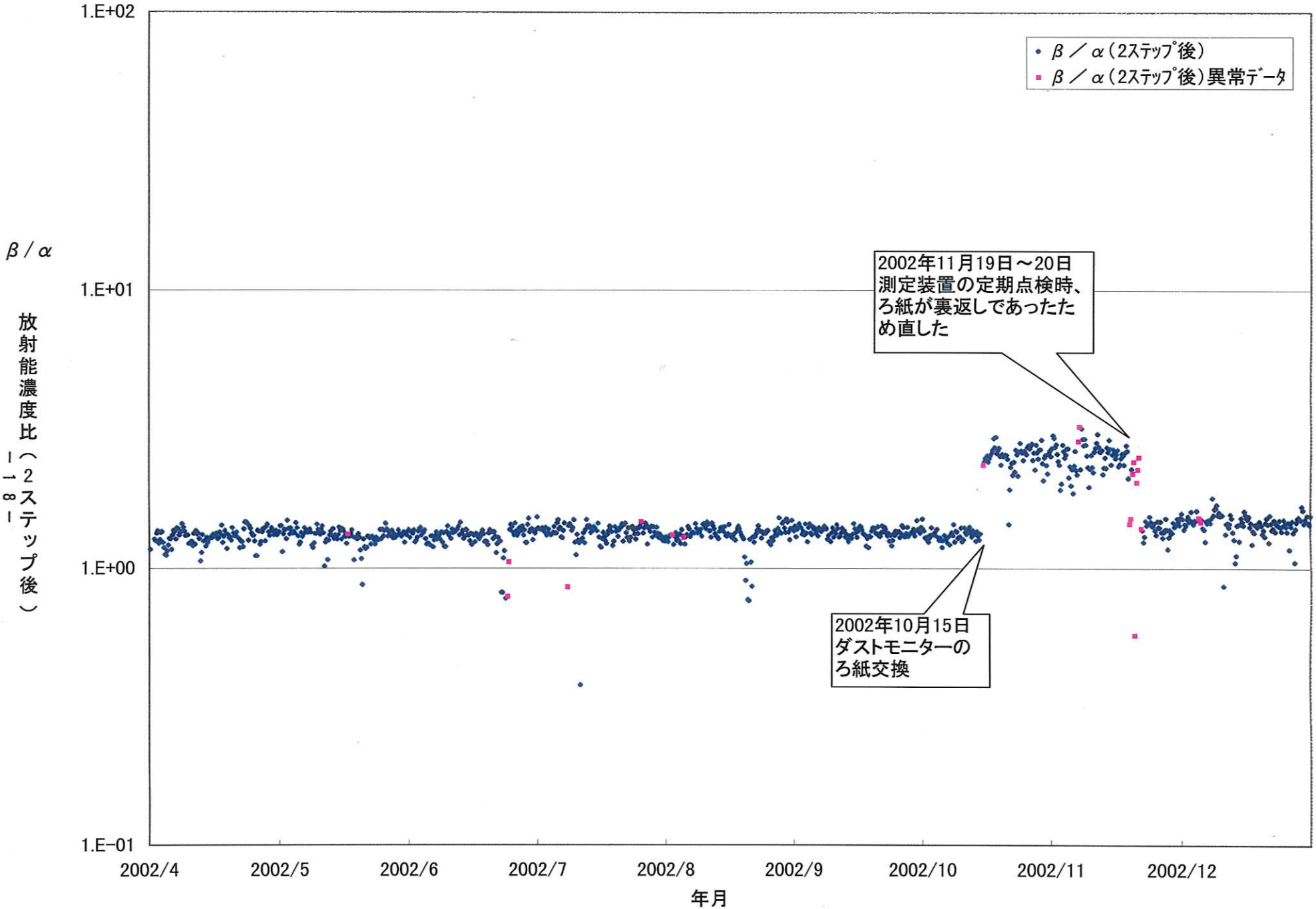
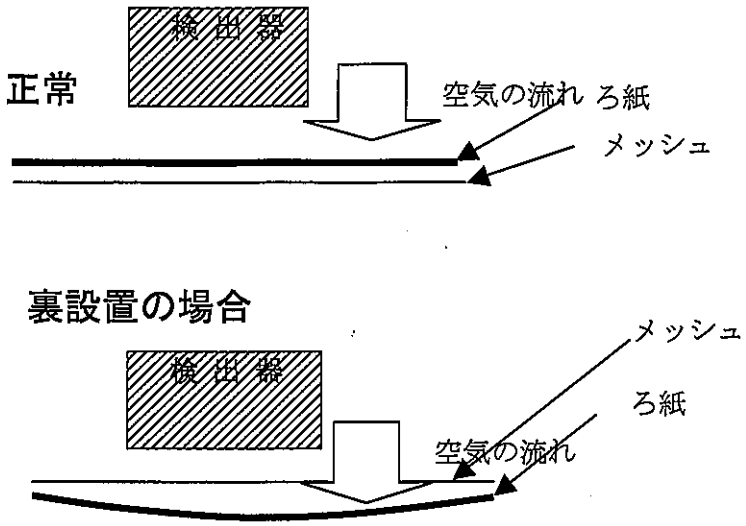


図7　伊自良湖測定所における大気浮遊じんの全α及び全β放射能濃度比（2ステップ後）（2002年4月～12月）



ろ紙は吸引時にばらばらになるのを防ぐために裏側に糸で出来たメッシュがついており、空気の流れが表から裏へのときは強度が保たれて検出器との位置関係が保持されるが、空気の流れが裏から表への場合は、ろ紙がメッシュの支えがない状態となりろ紙と検出器の距離が離れる。その結果として距離による効果の大きいα線計数が減少し全β／全α放射能濃度比が大きくなる。）

図８　ろ紙の裏表で全β／全α放射能濃度比が変化する理由

（アロカ株式会社資料）